一、跡目被仰付者之內、親知行分兄弟に御配分被成者、親居屋敷相應に而兄弟致拜領候はゞ、證文可被取置事。

一、惣與力屋敷之儀、向後人々に被下候條、御昵近屋敷御定歩數拾歩劣に、與力屋敷可被相渡事。

一、七拾歩　坊主小頭
　　御馬捕小頭
一、五拾歩　御小人小頭
　　御扶持方大工
　　町大工

右之通可被得其意候。以上。

朱書。右年寄中より度々に紙面を以申渡候寄書。

## 七　寺庵屋敷・與力屋敷・請込地等御定

覺

一、新地之寺庵從跡々雖爲御停止、重而承應三年彌可相守之旨被仰出候上は、地子地に有之候寺庵、御用地に被召上候歟、又は居屋敷等に被下候共、向後承應三年より以來之寺庵は、地子屋敷に茂指置申間敷事。

一、承應三年以前出來之寺庵之屋敷、御用地に被召上候歟、又は被下屋敷に相渡候はゞ、其替地町端之地子明地之內を以請させ可被申候。向後百姓地は爲請被申間敷事。

一、古來より金澤に罷在、中頃御領國之內又は他國に罷越、其以後金澤に立歸、先規を申立寺屋敷望候とも、爲請被申間敷事。

一、御領國之內所々に罷在、其所勝手惡敷旨に而金澤へ罷出、請地望候共、是又爲請被申間敷事。

一、與力知有之面々無其構、本高を以三千石以上上屋敷・下屋敷當り歩數可被相渡候。但、三千石以下與力有之人々は、自分知之高を以居屋敷可被渡候。其與力屋敷別所に而可被下事。

一、拜領屋敷之外、請込に家作り置、此度被取上候得ば、毀申樣成共、所替り候共、其屋敷之內に而右請込候歩數可指上所有之候はゞ、其通に可仕事。

一、御直之者地子屋敷に有之內、本屋敷由緒候而被取上、重而御屋敷不被下樣成者、相應之屋敷に有之分は取除置可申事。

一、被下屋敷餘地多有之候共、惡所之分は爲請込可申事。

一、地子町被取上候分、地子替地相渡可申候。但上ゲ屋敷に有之地子人共は、可爲各別事。

一、取上候地子屋敷之內に、其主仕置候かこひ井樹木等、右地子人に相渡可申候。但、先規より明屋敷に付有之かこひ・樹木等は、唯今屋敷拜領人請取候樣可被申付事。

一、本願寺宗旨寺請込屋敷に有之分は、取上可申候。但、町並に有之候者、地子屋敷たりとも可指除事。

一、御鷹匠御屋敷被下者共、小立野鷹匠町並に而、一所に可相渡候事。

一、江戸に相詰候人々之內、追而御屋敷可被下候條、御城下に而屋敷殘置可申事。

一、被下屋鋪人々望所之儀、向後寄合に被申聞、指圖次第以其上可被相渡事。

右被仰出之通被得其意、可有支配候。以上。

寅十二月廿三日（寛文二年）

御普請奉行中

## 八　親跡目兄弟に被仰付候節屋敷御定

覺

一、親跡目兄弟に被仰付、知行高より居屋敷歩數不足仕候共、兩年不致收納候以前屋鋪拜領仕度旨書付、取次被申間敷候。然共何とぞ兄弟一所に罷在儀難成斷候者、其頭奥書に記、取次可被上事。

朱書。唯今は兩年收納不仕候而茂書付取次上申候。

一、親兄弟に懸り罷在候もの被召出候共、右同斷之事。

一、射手・異風・與力・御鷹飼・御歩行・小算用之者、右同斷之事。

一、新參に被召出候面々、他國ものは勿論、御國之ものに而茂、親兄弟に懸り居不申ものは、被召出、其身勝手次第に、居屋敷可被下事。

一、親兄弟有之候而茂、其屋鋪一所に罷在儀難成、浪人之內より別家に罷在候者、其身斷次第御屋敷可被下候事。

以上。